

■ 概要

今回は「ラウンドテーブルミーティング(以下ラウンドテーブル)」という手法を用いたワークショップを行いました。地域や分野を越えて、活動の実践を聴き合い・語り合うことで、様々な人とつながり、今後の活動における課題を解決したり、より充実させたりするヒントが得られる機会としました。

講師 倉持 伸江先生
(東京学芸大学総合教育科学系准教授)



参加者数 45名 (主に区内で活動をしている方・杉並区の職員・社会教育実習生等)

■ ワークショップの大まかな流れ

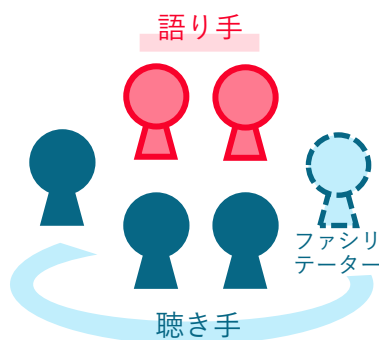
倉持先生から
ラウンドテーブルの
レクチャー

ラウンドテーブルの実施
グループ毎に
2名の語り手から事例報告

ふりかえり
今日の感想を全体共有
次回に向けて

ラウンドテーブルの構成

共同で
ふりかえり(省察)、
探究し、つながり合い
学び合う場



語り手 2人

- ・自らの活動の経験について語る
(事例報告)

聴き手 4人

- ・語り手の実践にじっくりと耳を傾ける
“共同学習者”・“共同探究者”
- ・内1人は、ファシリテーターとして進行役に

事例報告のテーマ (一部抜粋)

- ・ ボランティアレベルでの地域活動
- ・ 若者×地域活動
- ・ 「自分の暮らしをヒラキ、まちに家のように暮らす」くらし方
- ・ 「半公共空間」づくりをめざして「ネオスナック」に挑戦
- ・ 私の公民館での経験

ラウンドテーブルのポイントは
こちらから！



https://www.city.suginami.tokyo.jp/documents/7884/m-anabiai0110_1.pdf

■ ワークショップ内での取り組み

ファシリテーターレクチャー会

はじめてファシリテーターを経験する方でも安心して参加できるよう、講座開始前に倉持先生よりファシリテーションをするうえでのポイントを教えていただきました。

*ラウンドテーブルを実施する中で、聴き手→語り手→ファシリテーターと役割を通して、学びの循環を目指しています。

みんなの掲示板

「語り手」の資料を掲示しました。

また、参加者のみなさんが持ち寄った、ご自身の活動に関するパンフレットやチラシを置けるコーナーもあわせて設置しました。



交流タイム

講座終了後、30分間会場を開放し、参加者のみなさんが自由に交流・つながりをつくる時間としました(参加自由)。

ラウンドテーブルで異なるグループだった方の事例を見たり、気になる方に声をかけたり、参加者同士がつながる様子が見られました。



■ 参加者の感想 (一部抜粋)



語り手

今回は楽しく語りをさせていただきました。それと同時に、もっと地域の人や行政の人に頼っていくとともに自身の活動を広報していく必要性を感じました。



聴き手

最初は自分と重なっていない部分も、話を聞くうちに、自分にも重なる部分が出て来て、更にそこから自分の活動の悩みが新たに出たり、新鮮でとても楽しかったです。



聴き手

活動の動機は？など質問による話の掘り下げにより、語り手の方自身や活動に込める思いをより深く知ることができて良かったです。



語り手

語り手として不安でしたが、みなさん聞いてくださってなんとか語りができたかと思います。



聴き手

お話を伺うなかで、やはり皆さん「つなげること」を楽しみながらミッションにしていच्छるようになって感じました。



聴き手

杉並区内の小さな圏域ごとに活動者の話を聞くような場を作れないか検討したいと感じました。



ファシリテーター

2人の語り手の方に対して全ての方が何かしらの発言を積極的にし、参加してくださったので、良かったかなと思いました。



ファシリテーター

年代別や多世代、地域ごと等、色んなパターンで、お互いの暮らし方を話し合える場を一緒に作って行きたいです。



ファシリテーター

「みんなの掲示板」は、交流の先のきっかけ作りになるのではないかなと思います。自分が場づくり側になる機会があれば、試してみたいです。